

【それは月夜に舞う華の如く】

ハンプティ・ダンプティ

神代福寿

薄暗い病院の一室。下手にベッド。福寿が寝ている。

外は雨。シトシトと雨音がする。明かりは下手のベッドのみ当たっている。

福寿のため息。照明、全体明かり。上手にハンプが立っている。

ハンプ　　・・・・願いを言え。

福寿　　誰ですか？

ハンプ　　俺は悪魔だ。名前は言えんがな。お前と契約をしに来た。

福寿　　すみません。おっしゃっていることが良く分からないのですが。

ハンプ　　難しく考える事はない。言った通りだ。俺は悪魔で、お前と契約しに来た。

福寿　　契約・・・何故私の所に？

ハンプ　　お前が絶望したからだ。

福寿 え？

ハンブ ・ ・ ・ したろ？絶望。

福寿 私は ・ ・ ・ 。

ハンブ お前に自覚があるかどうかは問題じゃない。俺がここにいるという事はそういう事だ。

福寿 からかっている ・ ・ ・

ハンブ そう思うか？

福寿 ・ ・ ・ わけではなさそうですね。

ハンブ 今から契約について説明してやる。よく聞いておけ。

福寿 はい。

ハンブ ・ ・ ・ 悪魔と契約した人間は3つの願いを叶える権利を与えられる。願い事は何でもいい。一切の例外なく、どんな願いでも叶えてやる。ただし、一つの願いを叶える度にお前の持っているものを代償として差し出さなければならぬ。

福寿 あの。

ハンブ 何だ？

福寿 持っているものなら何でもいいんですか？

ハンブ お前が持っているものなら何でもいい。品物でも、体の一部でも、感覚でも。

福寿 ・ ・ ・ ・ ・ ・ そうですか。

ハンブ 3つ目の願いを叶える時だけは代償をこちらで決めさせてもらうがな。

福寿 何を代償にすれば。

ハンブ 魂だ。

福寿 魂……。

ハンブ 3つ目の願いを叶える時には魂を代償にしてもらおう。

福寿 ……私の魂はあなたのもになると言う事ですか？

ハンブ そうだ。

福寿 あの。

ハンブ 何だ？

福寿 本当にからかっているわけじゃ……

ハンブ お前がよっぽど鈍いやつじゃなければ本能で感じとれるだろう？俺が人間ではない事が。

福寿 はい。それは。

ハンブ たかだか一人の人間をからかいに来る程、悪魔は暇じゃない。

——間。福寿、黙って何か考えている。

ハンブ ……どうした？

福寿 あの、契約って強制なんでしょうか？

ハンブ 何？

福寿 絶対契約をして、願い事をしなければならぬでしょうか？

ハンブ そういうわけじゃないが、しかし……

福寿 思いつかないんです。

ハンブ 何がだ。

福寿 思いつかないんです。願い事。

ハンブ そんなはずないだろう。お前は絶望した。それは今、俺がここにいる事から考えて確定している。絶望するのは希望があるからだ。希望があるという事は、当然願い事があるものだろう？

福寿、ハンブの言葉にもう一度考えてみるが、

福寿 すみません。やはり思いつきません。

ハンブ お前は……

福寿 はい。

ハンブ ただ絶望したというのか。何も願いはなく、ただ絶望しただけだと？

福寿 私には分かりません。……おかしいですね。自分の事なのに。

ハンブ いや、人間というものは自分で自分が分からないものだ。だがしかし……。
福寿 契約は強制ではないのですよね。

ハンブ ああ……。強制ではない事は確かだが、こんなケースは初めてだ。

福寿 私はきつとカラッポなんです。

ハンブ お前、年はいくつだ？

福寿 今年で22になります。

ハンブ 一番願いたい事が多い年だろう。

福寿 そうなんですか？

ハンブ ……まあ、一般的にはそうだろうな。22年生きてきて願いたい事が一つもない人生か。……なるほど。確かにカラッポだな。

福寿 そうですね……。

ハンブ ただ少し困っている。さっきも言った通りこんな事は初めてだ。俺はこのまま死後の世界に帰っていいのかわからん。

福寿 悪魔さんは死後の世界から来たのですか？

ハンブ ああ。

福寿 そうなの、本当にあるんですね。

ハンブ 人間には生まれ変わりがあんだ。当然死後の世界もある。

福寿 生まれ変わりは？

ハンブ どうした？

福寿 ……いえ……あの。

ハンブ 何だ？

福寿 少し願い事を考えるお時間を頂けないでしょうか。

ハンブ それは契約をするということか？

福寿 はい。思いつけばですが。

ハンブ 契約する事を前提に願い事を考える人間も初めてだ。お前は変わっているな。

福寿 変わってますかね？

ハンブ 少なくとも一般的ではないな。

福寿 それで、あの……。

ハンブ ああ。待とう。契約してくれるなら助かるからな。……ああ、一つ伝え忘れていた。

福寿 何でしょう？

ハンブ 救済措置の話だ。三つ目の願いをして、その日から数えて7日以内に俺の名前を当てる事が出来れば魂が取られる事はない。

福寿 そうですか。

ハンブ お前は本当に変わってるな。

福寿 何故です？

ハンブ 普通、救済措置があると分かったらもつといろいろ質問するものだぞ。もつとも、

これ以上の説明なんてないがな。7日以内に俺の名前を当てる。それだけだ。

福寿 悪魔さんにも名前があるんですね。

ハンブ 一応な。……お前、名前は？

福寿 福寿……。神代福寿です。

ハンブ 神代福寿か。良い名前じゃないか。

福寿 そうでしょうか。

ハンブ 何？

福寿 いえ、何でもありません。

ハンブ、福寿のいる方へ移動しながら。

ハンブ 福寿。何か質問があるなら契約前にしてくれよ？後で聞いてないと文句を言われて

も困るからな……お前、目が見えないのか？

福寿 ……はい。先日の空襲でケガをしました。

ハンブ それで入院してるのか。

福寿 ……それだけではないのですけど。

ハンブ 治らないのか？

福寿 お医者様は無理だとおっしゃってました。

ハンブ そうか。気の毒にな。

福寿、少し複雑そうにする。

ハンブ どうした？

福寿 悪魔さんはお優しいんですね。

ハンブ 別に。

——間。

福寿 悪魔は戦争をしないんですか？

ハンブ 死後の世界には国もなければ宗教もないからな。何より悪魔は他の悪魔に興味がない。ついでに何かに対する執着心もない。争いが起きる要素がないだろう？

福寿 死後の世界は平和なんですね。

ハンブ 誰一人幸せでない状態でも平和と言うならそうだろうな。

福寿 戦争をしている時ですら誰かにとっては幸せなのですから、本当の平和ってそういう状態なのかもしれませんよ？

ハンブ ……面白い考えだな。どうやら福寿はバカではないようだ。

福寿 ありがとうございます。……そういう悪魔さんも……。

ハンブ 何だ？

福寿 言葉の使い方がとっても素敵です。

ハンブ 人間に褒められてもな。

福寿 お気にさわりましたか？

ハンブ ……いや……。不思議だな。悪い気はしない。

福寿 良かったです。あの、先程、契約前に質問しろとの事でしたのでいくつかお聞きしたいのですが。

ハンブ ……何だ？

福寿 人間には生まれ変わりがあるとは？

ハンブ ああ。

福寿 次に生まれ変わる時はやはり人間なんでしょうか。

ハンブ 絶対とは言えないがその確率は高いな。

福寿 生まれ変わるのに何か条件がありますか？

ハンブ 条件？

福寿 死んだ者順で生まれ変わるとか。

ハンブ いや、順番なんて事はない。現世で入れ物と魂が引き合えば自然に生まれ変わる事

になる。極端な話し、死んですぐ生まれ変わる奴もいれば、百年たっても死後の世界にいる奴もいる。

福寿　そうですか。．．．．．もつすこしお聞きしたい事が。

ハンブ　福寿が納得するまで質問しろ。時間はある。

福寿　3つ目の願い事をした後、悪魔さんの名前を当てる事が出来なかったら、私の魂はどうなるのですか？

ハンブ　．．．．．魂は悪魔のものになる。そうなった魂は二度と生まれ変わる事が出来ない。

福寿　二度と．．．．．

ハンブ　ああ。

福寿　私の場合、私の魂は悪魔さんのものになるとい事ですよね。

ハンブ　そうだ。

福寿　．．．．．最後の質問です。

ハンブ　言ってみろ。

福寿　悪魔のものになった人間の魂には意識があるのでしょうか？

ハンブ　意識？．．．．．どうだろうな。

ハンブ、目をつむり何かに集中する。目を開け何かを優しくつかみ掌に乗せる。

ハンブ ……意識はんないようだ。眠っている状態に近いと言えるだろう。

福寿 意識はなく、眠ったまま悪魔に寄り添う……。

ハンブ 俺が存在する限り永遠にな。

福寿 今、悪魔さんは魂に話しかけたのですか？

ハンブ ああ。

福寿 ……その魂の持ち主はどのような方だったのでしょうか。

ハンブ こいつか？……こいつは……。

ハンブ、掌の魂を見る。

ハンブ すまない福寿、その質問には答えられない。

福寿 そのような決まりがあるのですか？

ハンブ 違う。俺が覚えていないからだ。

福寿 え？

ハンブ 俺の周りには今まで契約してきた魂が数億とある。名前やどんなやつだったかなど覚えていない。

福寿 そうですか……。

ハンブ 福寿。

福寿 はい。

ハンブ 俺にはお前の質問の主旨が良く分からないんだが。

福寿 すみません。でも私にとっては大切な事なんです。

ハンブ ・・・・まあ、お前が納得するならそれでいいんだがな。

——間。

福寿 あの、・・・契約します。

ハンブ ・・・・そうか。願い事が見つかったのか？

福寿 それはまだ・・・。

ハンブ 何？

福寿 あ、いえ、大丈夫です。願い事ですよね。大丈夫です。あります。

ハンブ ・・・・言ってみろ。

福寿 まず、目を見れるようにして欲しいです次に、私の田舎は広島の中の山の中なんですけど、その景色がもう一度見たいです。それと海を見た事がないので海を見せて下さい。

ハンブ 待て待て。

福寿 はい。

ハンブ 一気に3つも願うつもりか？

福寿 ダメですか？

ハンブ ダメって事はないが……。それに福寿はバカではないが願い事の仕方が下手くそだな。

福寿 え？

ハンブ 一つ目の願い事はいいとして2つ目の願い事は「自分が満足するまで希望する場所に連れてって欲しい」と言えば一つにまとまるだろ。

福寿 ……そうですね。

ハンブ それに、こんな事言っただが本当にそんな願い事でいいのか？その願いさえ叶えられればお前は絶望から救われるのか？

福寿 それは……。はい、救われます。

ハンブ ……そうか。

福寿 では、正式にお願いです……。目を見えるようにして下さい。

ハンブ で、何を代償にする？

福寿 代償は……。味覚を。

ハンブ 味覚？……。視覚を得る為に味覚を捨てるのか。

福寿 はい。

ハンブ 変わった人間だな。

福寿 必要のないものですから。

ハンブ了解した。

ハンブ、左手を福寿に向ける。何かをつかむ。

ハンブ 願いは叶えた。包帯を取ってみろ。

福寿、包帯を取り、ゆっくり目を開ける。

ハンブどうだ？

福寿あらためまして、福寿です。

ハンブ 俺は名乗れんがな。

福寿 少し目がチカチカします。

ハンブ 久し振りの視界だ。無理もない。じきに慣れる。

福寿 そうですね。では早速で申し訳ないのですけど、2つ目の願いを聞いて頂けますか？

ハンブ ああ。

福寿 私が満足するまで希望の場所へ連れて行って下さい。代償は代償は

ハンブ どうした？

福寿

いえ、私って本当にカラッポなんだあつて。私がつってるもの、自分じゃよく分
かりません。22年って．．．短いわけじゃないのに。

ハンブ

この国は今、戦争をしているんだろ？それなら得るものよりも失うものが多い
はずだ。

福寿

．．．本当に優しいんですね。私を慰めて下さるんですか？

ハンブ

．．．別に。

福寿

でも確かにそうですね。失うものの方がはるかに多かったです。今の私に残されて
いるのって記憶や感情くらいです．．．これを代償にする事って出来ますか？

ハンブ

記憶や感情を代償に？

福寿

はい。

ハンブ

それはきつと福寿を福寿たらしめてるものだ。お前はお前じゃなくなっても生きて
いけるのか？

福寿

．．．分かりません。

ハンブ

そうだろうな。俺にも分からん。記憶や感情を失っても俺は俺でいられるのか。

福寿

いえ、私分からないのは．．．。

ハンブ

何だ？

福寿

いえ、何でもありません。少し時間を下さい。代償を考えます。

ハンブ

．．．ああ。

福寿 考えながら少しお話しても……。

ハンブ 構わない。

福寿 ありがとうございます。悪魔さんの周りにはたくさん魂がいらっしやるんですよ？

ね？

ハンブ ああ。

福寿 悪魔さんっておいくつなんですか？

ハンブ さあな。30億までは覚えてるが、それ以降はただ生きてきただけだからな。

福寿 30億……ご家族やお友達はいらっしやるんですか？

ハンブ 悪魔には親が存在しない。死後の世界において奇跡のような確率で自然に現れる。

そして悪魔を監視する悪魔から死後の世界と悪魔の規律について学ぶんだ。そして

言ったら？悪魔は他の悪魔に関心がない。

福寿 では、悪魔さんは30億年間ずっと一人だったんですね。……これからも。

ハンブ どうだろうな。

福寿 え？

ハンブ 最近、といっても数十万年前からだが、面白いヤツが一人いる。

福寿 面白いヤツですか。

ハンブ 出来が悪いクセに変わったやつでな。俺には絶対敵わないって分かっているのに何

百回と挑んできたり、他の悪魔はどう魂を手に入れるのか聞いてくるのに対し、ア

イツは俺の30億年に興味を持つ。

福寿 悪魔は他の悪魔に関心がない中で確かに変わった方ですね。

ハンブ だからアイツは今でも名前がない半人前なんだ。

福寿 名前が？

ハンブ 福寿。お前に少し悪魔について教えてやろう。

福寿 是非。

ハンブ さつき話した救済措置。あれは元々あったルールじゃない。

福寿 そうなんですか？

ハンブ ああ。昔は人間がいなかったからな。草木や動物も契約者だった。人間は誕生してから面白い制度を持つようになったな。種族ではなく個々を証明するもの——。

福寿 名前。

ハンブ 悪魔はそれを羨ましいと思った。そして自分にも名前が欲しいと。普段願いを叶えている側が初めて願いを持った。だが悪魔には名前を付けてくれる者がいない。……思いつかないんだ。俺達には名前が。

福寿 それで人間に名前を付けてもらうかわりに救済措置を作った？

ハンブ そうだ。現世のヤツらにも本能があるように、俺達悪魔にも本能がある。第一は勿論魂を手に入れる事だがもう一つは……名前を呼んでもらう事だ。悪魔は一番最初に契約する人間に名前を付けてもらい、そいつの魂を手に入れる事で一人前と

認められる。

福寿 なるほど。では、たくさん魂を手中に収めている悪魔さんは優秀なんですね。

ハンブ まあな。．．．．でもアイツは．．．．。

福寿 え？

ハンブ アイツはその本能の順番が狂っているように見える。アイツにとっての一番の本能は名前を呼んでもらう事なんだろう。そして、それは誰でもいいというわけじゃないらしい。アイツはずっと待っている。自分に名前を付けて欲しいと思う人間が現れるまで。

福寿 ．．．．心配なんですね、その方の事が。

ハンブ 心配？何故俺が。

福寿 ご自分ではお気付きにならないんですね。

ハンブ 何？

福寿 その顔は心配してるって顔です。少なくとも私にはそう見えます。

ハンブ 俺の事はいい。それより代償は決まったのか？

福寿 そうですね．．．．本当は名前を代償にするつもりだったのですが、今のお話を聞いた後では流石に失礼だと思ひまして。

ハンブ 了解した、と言いたい所だが、そうだな。名前を代償にされるのは良い気はしないな。それに名前を代償にしようと考えたのも福寿が初めてだ。

福寿 そうですか？．．．あ、思い出しました。私、持っているもの一つあります。

ハンブ ほう。

福寿 ただ．．．これを悪魔さんへの代償としていいのかわかりませんが．．．。

ハンブ 何だ？

福寿、首から下げているお守りを取り出す。

ハンブ お守り？

福寿 はい．．．やっぱりダメですか？

ハンブ 何故？

福寿 え？悪魔さんに神様のなものを渡すのもマズイかなと思ひまして。

ハンブ 神と言つても人間が作ったものだろう？大丈夫だ。

福寿 そうですか。良かったです．．．あの、いるんですか？神様って。

ハンブ どうだろうな。少なくとも俺は見た事がない。

福寿 でも仮にいたとしても．．．少し考えが変わりました。

ハンブ 考えが？

福寿 悪魔の方がよっぽど平等です。願い事は例外なく何でも構わないし、それに代償や

悪い事は前もって説明してくれます。でも．．．物語に出て来る神様ってズルい

と思います。自分の意に沿う願いじゃないと聞いてくれないし、そういう願いをしない人間には何も言わずに罰を与えるんですから。

ハンプ　．．．．確かに。古今東西物語に出て来る神はいつも身勝手だ。

福寿　ではこれを．．．．。

ハンプ、福寿の手を取る。

ハンプ　目をつむり、場所を頭に思い浮かべてくれ。そこに連れて行ってやる。

福寿　はい。

福寿、目をつむり集中。ハンプ右手で「力」を使う。

辺り、薄暗くなり、虫の声。

ハンプ　着いたぞ。ここでいいのか？

福寿、ゆっくり目を開ける。辺りを見渡す福寿。

ハンプ　．．．．ここでいいのか？

福寿 はい。ここです。この星空が見たかったです。

2人、星を見上げる。

ハンブ 綺麗だな。

福寿 はい。．．．．．良かった．．．．この星空だけは変わってなくて。でも．．．。

福寿、山の下の方を見て。

福寿 町はもう．．．．．。

ハンブ あの辺りが町だったのか？

福寿 はい。結構栄えてたんですよ。貧しいながらも活気があって。

ハンブ 人間は何故戦争を繰り返す？大きな傷を負い、後悔しているはずなのに、何故？

福寿 分かりません。もしかしたら．．．．．。

ハンブ もしかしたら？

福寿 人間の本能なのかもしれません。他人と争う事が。

ハンブ 本能か．．．．．そうなのかもしれないな。

福寿、地面に座る。

ハンブ おい……。

福寿 いいんです。悪魔さんもどうですか？冷たくて気持ち良いですよ。

ハンブ いや、俺はいい。

福寿 残念です。

福寿、座ったまま焼け野原となった町を見ている。

ハンブは夜空を見上げている。——間。

福寿 悪魔さん。

ハンブ ……何だ。

福寿 お話、聞いてもらってもいいですか？

ハンブ ……ああ。

福寿 私の名前、付けてくれたの母親なんです。福寿草っていう植物から取ったそうです。

ハンブ 何故、福寿草だったんだ？

福寿 人間が勝手に作った事なんですけど、植物には「花言葉」というものがあって、福

寿草の花言葉は「永久の幸福」。

ハンブ 福寿に幸せになって欲しいという願いを込めての事だろう。

福寿 でも、その願いは叶えられませんでした。私の人生は、福寿草のもう一つの花言葉の方が合っています。

ハンブ もう一つの花言葉？

福寿 「悲しき思い出」。

ハンブ それがもう一つ？

福寿 面白いですよ。同じ植物に全く逆の花言葉があるなんて。そして、望まなかった方の言葉が、私の人生を占めるなんて。

ハンブ だから嫌いなのか、自分の名前が。

福寿 これでもいろいろあったんですよ？何度も前を向いて、諦めずに進んできました。いつか良い事があるんじゃないかって。でも……疲れちゃいました。

ハンブ 福寿、お前……。

福寿 はい。

ハンブ ……いや、何でもない。

福寿、再び顔を町へ向ける。——間。

福寿、何かを考える。やがて大きく深呼吸をした後立ち上がる。

福寿 ありがとうございます。次の場所をお願いしても良いですか？

ハンプ もういいのか？

福寿 はい。満足しました。

ハンプ そうか。次は・・・海だったな。

福寿 はい。

ハンプ どんな海が見たい？厳寒の海もあれば、人をさらうくらいの荒波もある。暑い地域の海で海水浴も出来るぞ。

福寿 私は・・・静かな海がいいです。キレイな砂浜があつて、そこに座つて波の音を聞きたいです。

ハンプ 了解した。手を。

ハンプ、福寿の手を取ろうとした時、福寿、少し苦しそくに胸を押さえる。

ハンプ どうした？

福寿 いえ、何でもありません。お願いします。

福寿、ハンプの手を取る。

ハンブ 目を閉じ、福寿の望む海を頭に思い浮かべてくれ。極力それに近い場所へ連れて行ってやる。

福寿 はい。．．．．はい。大丈夫です。

ハンブ よし。移動するぞ。

ハンブ、右手で「力」を使う。静かな波の音。

福寿 波の音がしますね。

ハンブ 目をあけてもいいぞ。

福寿 ．．．．これが海．．．。

ハンブ ああ。

福寿 大きいです．．．と言いたい所ですが、暗くて良く見えません。

ハンブ 辺りに明かりがないからな。

福寿 でも、夜の海も素敵です。．．．．波の音って落ち着きますね。

ハンブ 座らないのか？

福寿 え？

ハンブ 砂浜に。

福寿 あ、はい。

福寿、その場に座る。

福寿 やっぱり公園の砂場とは全然違いますね。

ハンブ そうだな。……ん？

ハンブ、空を見上げる。

ハンブ 雲に隠れていたのか。月は意外と明るいな。福寿、海が良く見えるようになったぞ。
福寿 本当ですね。水面にも月が映っていて………幻想的です。

福寿、水面から空へ視線を移し、月を見上げる。——間。

ハンブ あまり月を見ていると、魂を持っていかれるぞ。

福寿 もし、そうなたらどうします？

ハンブ 取り返しに行く。

福寿 月までですか？

ハンブ ああ。

福寿 ……私の魂にそこまでして頂く価値がありますかね。

ハンブ あるんじゃないか？福寿は俺を困らせた数少ない人間だ。

福寿 それは……失礼しました。

ハンブ ……別に。

福寿、クスツと笑う。

ハンブ ……何がおかしい？

福寿 あ、すみません。ただ、悪魔さんがカワイイなと思ひまして。

ハンブ カワイイ？俺がか？

福寿 はい。何か照れた時に、いつも「別に」って。ログセなんですネ。あ、でも30億年も生きてきた人生の大先輩にカワイイは失礼ですよネ。

ハンブ ……今後は使わん。

福寿 これで使うのやめてしまったら、私だけの「別に」になりますけど？

ハンブ いいんじゃないか。「別に」。

福寿 悪魔さんは、面白い方なんですネ。

ハンブ 俺の事はいい。福寿は海が見たかつたんだろ？

福寿 はい。

福寿、視線を前方の海へ。——間。福寿、身震いする。

ハンブ 寒いのか？

福寿 大丈夫です。……はい。ありがとうございました。もう大丈夫です。

ハンブ で、次は……。

福寿 3つ目のお願い、いいですか？

ハンブ 何？

福寿 3つ目のお願いをしてもいいですか？

ハンブ まだ2つの場所にしか行ってないだろう。他に行きたい所はないのか？

福寿 ……そうですね。ありません。

ハンブ たった2つの場所を見ただけで満足なのか？ たったこれだけで？

福寿 はい。

ハンブ 福寿、お前は知らないだろうが、世界は広いんだぞ？ 山と間違えてしまいそうな程大きな岩もあれば、海と間違えてしまいそうな川もある。視界が全て水で覆われてしまうような滝もあれば、上空から見ないと分からない地上絵が描かれた地域もある。福寿の願いはこの国に限定したものじゃない。行きたいと望みさえすれば、お前はどこにだって行けるんだぞ？

福寿 ……はい。ありがとうございます。でも…お気持ちだけ頂きます。

ハンブ だが。

福寿 悪魔さんは変わった悪魔ですね。魂を手に入れたと思うのが悪魔の第一の本能な

のではないのですか？

ハンブ そうだが、しかし。

福寿 大丈夫です。ありがとうございます。

ハンブ 最初に言われた時から思っていた……福寿からの「ありがとうございます」

は嬉しくない。何故自分の事なのに他人事のような礼を言うんだ。

福寿 すみません。

ハンブ 俺はそれが少し、気に入らない。

福寿 すみません。ですが……いえ……すみません。

——間。

ハンブ すまない。

福寿 え？

ハンブ 福寿は契約者だ。福寿が満足ならそれでいいはずなのにな……余計な事を言った。

すまない。

福寿 いえ。私の事を思って言ってお下されたという事は分かっていますから。ありがとうございます。

「ございます。．．．あ、今のはちゃんと、」

ハンブ 大丈夫だ。伝わった。

福寿 良かったです。．．．私、こんなに短い間で、こんなにたくさんおしゃべりしたの初めてかもしれません。

「たの初めてかもしれないな。」

ハンブ お互い貴重な体験をしてるな。

福寿 はい。私、もっと早く．．．。

福寿、言いかけて、苦しくなり、手で胸を押さえる。

ハンブ どうした。

福寿 いえ、何でもありません。

ハンブ 何でもないわけではないだろう。苦しいのか。

福寿 どうかお気になさらず。

ハンブ 福寿!!．．．お前、身体が悪いのか？入院していたのは、目のケガだけじゃなく、

他に理由があったんだな!?

福寿 それは．．．。

ハンブ 何故言わなかった!!俺は悪魔の力を持っていたってお前の全てが分かるわけじゃない

いんだぞ!!

福寿 もし、話していたら、外へ連れて行ってくれましたか？

ハンブ それは・・・!!

福寿 大丈夫です。苦しいですけど、いつもの事ですから。

ハンブ いつもだと？

福寿 こうして耐えていればじきにおさまります。

ハンブ しかし!!

福寿 悪魔さんはやっぱり優しいですね。お医者様でもそこまで真剣に心配はして下さい

なかつたですよ？

ハンブ 俺は心配など!!

福寿 ・・・・悪魔さん。

ハンブ 何だ。

福寿 御自分の顔を鏡で見试着みて下さい。・・・その顔は、心配してるって顔です。

ハンブ 福寿!!

福寿 すみません、悪魔さん。もう時間がないかもしれません。ですから、3つ目の願い

を・・・。

ハンブ その話は後だ!!福寿、病院へ戻るぞ。

福寿 悪魔さん、聞いて下さい。3つ目の願いは・・・。

ハンブ 福寿!!

福寿 . . . はい。

ハンブ 病院に戻るぞ。

福寿 . . . はい。

ハンブ、右手で「力」を使い、病院へ。福寿を抱え上げ、ベッドへ寝かせる。
カチコチと時計の音。やがてフェードアウト。

福寿 . . . 悪魔さん。

ハンブ 落ち着いたのか？

福寿 はい。おかげ様で。

ハンブ . . . そうか。

福寿 すみません。ご迷惑をおかけしました。

ハンブ . . . 空襲でケガをしただけじゃなかったんだな。

福寿 はい。

ハンブ 医者は何て言ってるんだ。

福寿 原因は良く分かりませんが、内蔵がボロボロになっているそうです。

ハンブ そうか。 . . . それで . . . その、なんだ . . .

福寿 長くはないそうです。

ハンブ そうか。だが、違うよな？

福寿 え？

ハンブ 自分の、先の短い人生に絶望したわけではないよな？

福寿 はい。

ハンブ 自分の健康だって願えた。それに何より、生まれ変わりの話を聞いても救われた顔をしなかった。福寿はまるで、

福寿 悪魔さん。

ハンブ すまない。

福寿 それで、3つ目の願い事ですが

ハンブ 今日は疲れたる。とりあえずゆっくり休むといい。

福寿 誤魔化さないで下さい。

ハンブ そうじゃない。

福寿 いいえ、誤魔化しています。願い事を言う機会は、全て契約者である私の希望で叶えられるべきものはずです。

ハンブ 福寿は本当に貴重な体験をさせてくれるな。一日に3つの願いをした人間は初めてだ。

福寿 すみません。あまり今後に活かす事が出来ない体験をさせてしまっているかもしれ

ませんね。

ハンブ そうだな。福寿のような人間が2人も3人もいるとは思えない。いや、思いたくない。

福寿 ・ ・ ・ 私のような人間 ・ ・ ・ 。

ハンブ どうした？

福寿 いえ。 ・ ・ ・ ・ ・ 皮肉なものです。この場になって、願い事が2つ出来てしまいました。

ハンブ 2つ？

福寿 はい。

ハンブ 言ってみろ。福寿は願い事をするのが下手クソだからな。一つにまとめられるかもしれない。

福寿 いえ、大丈夫です。ちゃんと選びますから。

ハンブ ・ ・ ・ そうか。

——間。

福寿 決めました。3つ目の願い事。

ハンブ ・ ・ ・ 何だ？

福寿 …… 悪魔さんの名前を教えてください。

ハンブ 何？

福寿 悪魔さんの名前を教えてください。それが3つ目の願い事です。

ハンブ 福寿、それは……。

福寿 ダメですか？

ハンブ 願い事に例外はない。ただ、

福寿 では教えてください。

ハンブ いいか、俺から名前を教えられたら、

福寿 救済措置の時、「当てた」事にはならない……ですよね？

ハンブ ああ……。それが分かっているのに何故？……いや、分かっているから

こそか。

福寿 はい。

ハンブ お前の本当の願いは、魂だけになって、永遠の眠りにつくこと。

福寿 …… 私、もう生まれ変わりたいありません。どんな未来にも希望が持てま

せん。つらいのも、悲しいのも、嫌なんです。永遠に眠り続けられるなら、そうし

たいです。

ハンブ そう思うのは福寿が楽しい事や幸せを味わった事がないからだ。次の人生ではたく

さん良い事があるかもしれないぞ？

福寿 悪魔さん、次に生まれ変わったら、私は必ず幸せになれますか？
ハンブ . . .それは約束出来ない。

——間。

福寿 悪魔さん . . .教えてください . . .名前を、教えてください。

福寿、ハンブを見る。ハンブも福寿を見る。長い長い間。

ハンブ了解した。

福寿 ありがとうございます . . .これでやっと解放される。

ハンブ 初めて見せる笑顔がそんな笑顔とはな。

福寿 でも、私が救われるのは確かです。

ハンブ 救いになるのか？魂だけになって眠り続けるのが。

福寿 何が救いかは、本人が決める事ですから。

ハンブそうだな。福寿、俺も教えて欲しい事がある。

福寿 何ですか？

ハンブ 俺の名前を知る事以外に、願いたかった事って何だ？

福寿 それは……。

ハンブ 教えてくれ。

福寿 ……私はもう、手後れな人間でしたが、もし……私と同じような境遇で、間

に合う人と契約したのなら……その人を助けてあげて欲しいと思います。

ハンブ 福寿……。

福寿 人を憎んでいる内はまだ、人として救いようがありますから。

ハンブ お前にとって嬉しい言葉かは分からないが、人だ。

福寿 え？

ハンブ 福寿は、誰よりも、人間だ。

福寿 ……やっぱり、優しいですね。私の魂の寄り沿う先が、悪魔さんで良かった……。

ハンブ ……目を閉じろ。

ハンブ、右手を福寿に向ける。が、どうしても力を使えず降ろしてしまう。ハンブが迷っている空気を察した福寿、優しい笑みを浮かべて。

福寿 ……悪魔さん、ありがとうございました。

ハンブ 悪魔さんはやめてくれ。

ハンプ、右手を福寿に向ける。

ハンプ
．．．俺の．．．名前は．．．。

暗転。カチコチと時計の音。福寿、下手へはける。

時計の音、フェードアウト。明かりがつく。

ハンプ、一つの魂を手に行っている。

上手からダイナが入ってくる。

ダイナ
ハンプ!!

ハンプ
．．．何だ。

ダイナ
俺と勝負しろ!!何か今日は勝てる気がするんだよな。

ハンプ
．．．すまないが気分じゃない。今度にしてくれないか。

ダイナ
何だよ、元氣ないな．．．何かあったのか?

ハンプ
．．．別．．．何でもない。

ダイナ
何でもない事ないだろ。悩みでもあるのか?

ハンプ
お前は本当に変わった奴だな。悪魔が他の悪魔の心配してどうする。

ダイナ、上手へ去って行く。

ハンブ、去って行くダイナの背中を目で追う。そして再び福寿の魂に視線を戻す。

ハンブ 確かに今までの俺は、魂の持ち主がどんな人間だったかすぐに忘れていた。

ハンブ、福寿の魂に語りかけるように

ハンブ 3時間だぞ？ たった3時間しか一緒にいなかったんだ。……お前の事をもつと知りたかった。お前に何があったのかも。……過去を聞いたとして、お前は答えてくれただろうか？ ……神代福寿。……この名前はしばらく、忘れられそうにない。

幕